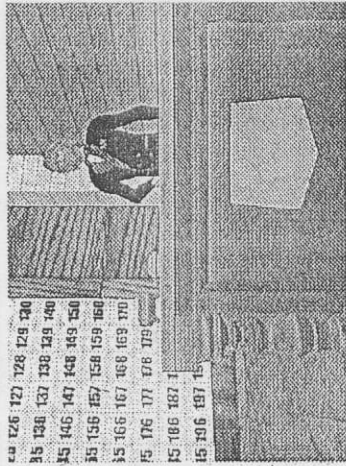


セカンドライフで開催

競売の臨場感 味わえます

マグスルとサイバーマキシマ



オークションの臨場感を味わえます。仮想空間「セカンドライフ」の参入支援のマグスル（東京・江戸川、新谷卓也社長）とサイバーマキシマ（東京・港、ソシ・コソエ社長）は十二日、

セカンドライフでリアルタイムオークション（競売）を開催すると発表した。参加者はアバター（ネット上の分身）を使って入札を指示して、臨場感ある競売を楽しむ。

「3Dオークション」の名称で第一回オークションを二十一日に開く。両社はセカンドライフ内にオークション会場「写真」を備える専用島を新設。出品者は現実の品物・サービスのほか、空間内で使えるアイテムなどを出品できる。入札者は自分のアバターでパドル（入札番号札）を上げて金額を指示する。

現実の品物は円で、セカンドライフのアイテムは仮想通貨「リンデンドル」で決済する。当初、サイバーマキシマが決済や配送などの事務手続きを仲介し、参加者同士が安心して楽しめる環境を提供する。サイバーマキシマは落札金額の三%を手数料収入として得る。マグスルは企業からの出品や広告を収入とする。